

「熊本市都市史図解―都市形成と都市計画―」完結



熊本市都市政策研究所では、平成 24 年 10 月の開設以来、地域の特性や特色をよく知り都市政策の歴史を十分に認識しておくことが、これからの調査・政策研究においても、まちづくりを考えるうえでも重要であることから、「熊本市の地域認識と歴史認識の共有化に資する研究」として、地図や計画図等を掘り起こし、その時代背景や計画等の調査、整理に取り組んできました。

その研究成果として、これまで平成 26 年度と平成 28 年度に「都市形成史図集」の戦前編と戦後編を刊行しました。そして今回、旧都市計画法制定

100 年という節目を迎えたことも踏まえ「都市計画史図集」を作成し、これらの 3 部作をまとめて「熊本市都市史図解 ―都市形成と都市計画―」として公表するに至りました。

「都市計画史図集」は、寛永 6 年（1629 年）頃の「熊本屋敷割下絵図」から平成 26 年（2014 年）の「桜町・花畑周辺地区まちづくりマネジメント基本計画所収図」までの 43 枚の主図とその解説で構成されています。また解説を補完するために補図 39 枚を使用しています。これらの計画図は、調査を進める中で新たな事実や計画図等が発見されることがあり、その都度、どれを使用するか、どのような構成にするかなど、検討を重ね最終的に決定したもので、関係機関の協力をいただきながら掘り起こした、いずれも当時の都市計画を窺い知るうえで貴重な資料です。

冒頭の総説では、熊本市における都市計画に関する出来事について、新・旧都市計画法の施行、戦争や災害など、時代の大きな節目に沿って解説しています。今日の都市の形に至る社会的な背景や経緯をはじめ、熊本市における都市計画の流れを俯瞰して見ることができます。

既刊の「都市形成史図集（戦前編・戦後編）」は、地図が作成された当時の都市の状況と、それがどのような背景や過程を経て形成されたかを対象としているのに対し、「都市計画史図集」は、計画図が作成された当時、どのような背景のもと、どのような方針や方向性をもって都市の整備や開発、保全状況などが図られようとしていたかを対象にしています。巻末の「参考文献一覧」にあるように、多くの文献を参考にあたりながら、また副図も用いながら、凡例の解説を中心に限られた紙面の中で最大限、当時の状況が鮮明になるよう解説しています。

また、計画がなされたものの、その後の時代の変化とともに必要性が薄れたり、予算の確保が困難になったりして、計画の見直しや事業未着手のまま実現しなかったものもあります。計画が策定された当時、どのような社会的な背景や要請により、どのような都市づくりを進めようとしていたかが理解できるため、『実現しなかった都市計画』にも着目しています。改めて当時を振り返ることで、これからのまちづくりを考えるうえでの大きなヒントが隠されているのではないのでしょうか。